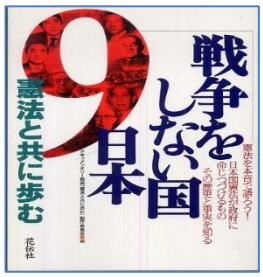
「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所　〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18　FAX0282-22-3757
電話連絡先0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp　ＨＰ：太平山麓九条の会で検索

１６９号
２０２１年7月２２日発行

ビデオ「戦争しない国日本」の視聴会



コロナ禍のなか、多くの国民が不安を感じているにもかかわらず、政府・東京都はオリンピック・パラリンピックを強行しようとしています。

こんな状況でも、改憲の動きは着々と進んでおり、看過できない状況です。このビデオは１０年前に作成されたものです。「日本国憲法」をテーマに、社会的な話題作をとり続けてきた３人の監督が構想を練り上げ、１０８人の各界を代表する呼びかけ人によって実現され、シリーズ化された作品の第一編です。監督は、社会派ドキュメンタリーを代表する片桐直樹氏です。「日本国憲法が、政府に命じつづけるもの」「その歴史と事実を知る」とあるように、憲法と平和主義について考える機会になることと思います。ぜひお出かけください。

- 日時　８月２２日（日）１３時３０分から１５時３０分まで
- 場所　キョクトウ楽習館（旧栃木第一小学校）　大交流室（１階）
- 伊藤真さんの「国民と９条の力を再確認しよう」のビデオを合わせて視聴する予定です。

3歳で迎えた終戦

増田美奈子

1942 年 7 月に生まれた私は、1945 年 8 月 15 日「太平洋戦争が終わった日は、3 歳になったばかりでした。ですから天皇のお言葉なるものを聞いた記憶がありませんし、日本が戦争に負けたのだという意識もありませんでした。6 人家族の我が家の庭に、大きな防空壕があったこと、何回かそこに逃げ込んだことは覚えています。栃木市には空襲は無く、万町の方に米軍が間違えて爆弾を落としただけとのこと。ですから富士見町の我が家の近くでは爆弾が落ちたことはなかったのです。しかし米軍機が栃木の空を飛んだ、その音の怖さだけは覚えています。その音がすると強い緊張感を持ち不安になる恐ろしさです。戦争が終わって栃木の上空を民間の飛行機が飛ぶようになりましたが、その音でも、怖さと不安は続きました。それは成人になっても。

私は 20 歳を過ぎて都立の保母学院 2 部に入学。クラスメートは。高校新卒より、私のように何年か過ぎて保母になりたいと入学した仲間が多かったのです。授業のひとつ、心理学の先生が「君たちの年代は飛行機の音を怖がるんだよ。」「潜在的に飛行機の音と空襲が結びついて飛行機は怖いものという意識ができているんだよ。」と話してくださいました。私はその授業を聞いてから飛行機の音を聞いて緊張することはなくなりました。この先生の授業を聞いていなかったら、私は今でも飛行機の音に緊張していたかもしれません。私の終戦はこの時だったのではないでしょうか。

いまだに戦争が続いている地域があります。そんな国の子どもたちがどんな緊張感をもって日々を過ごしているか、私が飛行機の音に二十歳過ぎまで緊張し、不安に思っていたことの何十倍、何百倍の心の傷を持っている子どもたちが沢山居ることを知った時、「何としても一日も早く戦争を無くしたい」と思いました。これが私の憲法九条を守ろうという活動の原点かもしれません。

◆スタンディング　８月９日（月）市役所前　８月 19 日(木)　ケイズデンキ前　午後４時～
８月６日（金）８時１５分から８時４５分　イオンカワチ前（原水協主催）
◆スタッフ会議　８月１２日（木）・８月２７日（金）市民交流センター　２階会議室　午後１時半～

沖縄の日（６月２３日）

７５・５％の人が知らない？

６月２３日は沖縄の「慰霊の日」です。式典では宮古島市立西辺中 2 年上原美春さんが「みるく世の謳」を朗読する様子などが報道されました。しかし、沖縄タイムスによると、ヤフーとの共同アンケートで、全国からの回答者２０００人のうち、７５．５％にあたる１５０９人が慰霊の日を「知らなかった」と回答したといいます。６月２３日は沖縄戦で、旧日本軍の組織的な戦闘が終わった日とされています。学校や役所が休みになり、全島が慰霊と祈りの日になるということです。

「みるく世（ゆ）の謳（うた）」

初めて命の芽吹きを見た。
生まれたばかりの姪（めい）は
小さな胸を上下させ
手足を一生懸命に動かし
瞳に湖を閉じ込めて
「おなかすいたよ」
「オムツを替えて」と
力一杯、声の限りに訴える
大きな泣き声をそっと抱き寄せられる
今日は、
平和だと思う。
赤ちゃんの泣き声を
愛（いと）おしく思える今日は
穏やかであると思う。
その可愛らしい重みを胸に抱き、
6月の蒼天（そうてん）を仰いだ時
一面の青を分断するセスナにのって
私の思いは
76年の時を超えていく
この空はきっと覚えている
母の子守唄が空襲警報に消された出来事を
灯（とも）されたばかりの命が消されていく瞬間を

そんな日を私たち本土のものは他人事として見ているような気がします。沖縄は日本で唯一敵兵と対峙し、銃口を向けられた体験をしている島です。戦後も、多くの米軍の基地を押し付けられ、辺野古の埋め立てに沖縄戦の戦死者が眠る土を使おうという無神経な政府の行動に苦しめられています

平和を守るためには、私たちがもっと、沖縄の歴史や痛みを知る必要があります。

吹き抜けるこの風は覚えている
うちなーぐちを取り上げられた沖縄を
自らに混じった鉄の匂いを
踏みしめるこの土は覚えている
まだ幼さの残る手に、銃を握らされた
少年がいた事を
おかえりを聞くことなく散った父の
最後の叫びを
私は知っている
礎（いしじ）を撫（な）でる皺（しわ）の手が
何度も拭ってきた涙
あなたは知っている
あれは現実だったこと
煌（きら）びやかなサンゴ礁の底に
深く沈められつつある
悲しみが存在することを
凛（りん）と立つガジュマルが言う
忘れるな、本当にあったのだ
暗くしめった壕（ごう）の中が
憎しみで満たされた日が
本当にあったのだ
漆黒の空
屍（しかばね）を避けて逃げた日が
本当にあったのだ
血色の海
いくつもの生きるべき命の
大きな鼓動が
岩を打つ波にかき消され
万歳と投げ打たれた日が
本当にあったのだと
6月を彩る月桃（げっとう）が揺蕩（たゆた）う
忘れないで、犠牲になっていい命など
あって良かったはずがない事を
忘れないで、壊すのは、簡単だという
事を
もろく、危うく、だからこそ守るべき
この暮らしを
忘れないで
誰もが平和を祈っていた事を
どうか忘れないで

生きることの喜び
あなたは生かされているのよと
いま摩文仁（まぶに）の丘に立ち
私は歌いたい
澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ
今日生きている喜びを震える声帯に感じて
決意の声高らかに
共に立つあなたに
みるく世（ゆ）ぬならば世（ゆ）や直（なう）れ
平和な世界は私たちがつくるのだ
感じて欲しい
滾（たぎ）る血潮に流れる先人の想（おも）い
共に立つあなたと
歌いたい
蒼穹（そうきゅう）へ響く癒しの歌
そよぐ島風にのせて
歌いたい
平和な未来へ届く魂の歌
私たちは忘れないこと
あの日の出来事を伝え続けること
繰り返さないこと
命の限り生きること
決意の歌を
歌いたい
いま摩文仁の丘に立ち
あの真太陽（まてぃだ）まで届けと祈る
みるく世ぬならば世や直れ
平和な世（よ）がやってくる
この世（よ）はきっと良くなっていくと
繋（つな）がれ続けてきたバトン
素晴らしい未来へと
信じ手渡されたバトン
生きとし生けるすべての尊い命のバトン
今、私たちの中にある
暗黒の過去を溶かすことなく
あの過ちに再び身を投じることなく
繋ぎ続けたい
みるく世を創るのはここにいるわたし達だ